

手回り品

■持ち込めない荷物

- ▼ 危険品、刃物^(※)、暖炉・コンロ、動物^(*)、死体、不潔なもの、臭気を発するもの、他のお客さまに危害を及ぼすおそれのあるもの、車内を破損するおそれのあるものなどは車内への持ち込みはできません。

※ 他のお客さまに危害を及ぼすおそれがないように梱包された刃物は除きます。なお、対象とする刃物及びその梱包方法は、「刃物を鉄道車内に持ち込む際の梱包方法についてのガイドライン」（平成30年12月国土交通省鉄道局）によります。詳しくは、国土交通省ホームページをご参照ください。

* 少量の小鳥、小虫類、初生ひな、魚介類でケースに入れたものは除きます。

■危険品について

- ▼ 危険品とは、可燃性液体、高圧ガス、可燃性固体、火薬類、揮散性毒物、農薬などを指します。
- ▼ 一部の危険品については、梱包方法や持ち込み数量などを制限した上で、車内にお持ち込みいただけるものもありますが、ガソリン、灯油、軽油などの可燃性液体そのものは、量に係わらず、車内への持ち込みはできません。
- ▼ 可燃性液体、高圧ガス、可燃性固体を含む製品であって、小売店などで一般的に購入いただけるもの（酒類・化粧品類・医薬品・ヘアスプレーなど）は、2リットル以内または容器を含む重さが2キログラム以内であれば、持ち込むことができます。この場合、中身が簡単に漏れ出ないようにご注意ください。

■持ち込める荷物

- ▼ 携帯できる荷物で、タテ・ヨコ・高さの合計が250センチ（長さは2メートルまで）以内で、重さが30キロ以内のものを2個まで持ち込むことができます（ただし、傘、つえ、ハンドバッグなどの身の回り品は個数に数えません）。

<無料のもの>

- ▼ 旅行鞆、スーツケース、スポーツ用品（サーフボードは専用の袋に収納したもの）、楽器、娯楽用品、玩具、その他携帯できる荷物
 - * スポーツ用品、楽器、娯楽用品などは、長さの制限を超える場合であっても、車内で立てて携帯できるものは持ち込むことができます（専用の袋、ケースなどに収納するようにしてください）。
- ▼ サイクリングやスポーツ大会などに使用する自転車は、解体し専用の袋に収納したものとまたは、折りたたみ式自転車においては折りたたんで専用の袋に収納したもの
- ▼ 身体障害者補助犬法に定める盲導犬、介助犬、聴導犬を使用者本人が随伴する場合。ただし、法に定める表示等を行っている場合に限りです。
- ▼ 車イスで、長さ・高さが120センチ以内で、幅が70センチ以内のもの

<有料のもの>

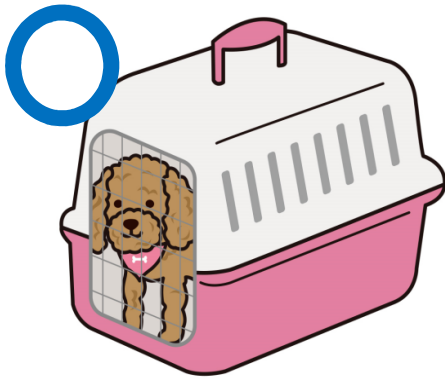
- ▼ 小犬、猫、鳩またはこれらに類する小動物（猛獣やへびの類を除く）で、
 - 長さ70センチ以内で、タテ・ヨコ・高さの合計が90センチ程度のケースにいれたもの
 - ケースと動物を合わせた重さが10キロ以内のもの
- ▼ 手回り品料金は、1個につき290円です。ご乗車になる駅の改札口などで荷物をお見せのうえ、普通手回り品きっぷをお求めください。

■お願い

- ▼ 手回り品の持込みや保管は、お客さまご自身でお願いいたします。
- ▼ 小動物（ペット等）を持ち込まれる場合は、駅や車内ではケースから出さないようお願いいたします。
- ▼ 特に大きな荷物などを持ち込まれる場合は、時間帯によっては他のお客さまのご迷惑となることがありますので、細心のご注意をもってお取扱われるよう、ご協力をお願いいたします。
- ▼ 安全のため、車内の網だなには重量のある荷物や不安定な形状の荷物はお載せにならないようお願いいたします。
- ▼ 他のお客さまにご迷惑をおかけするおそれがある場合や列車が大変混雑している場合などは、持込みをお断りする場合があります。

ペットを連れて駅・列車をご利用のお客様へ

動物が苦手なお客様やアレルギーをお持ちのお客様も
気持ちよくご利用いただけるよう、
以下の点をお守りください。



▼ ペットは全身が入るケースに入れてください。



抱いたままや、リュックサック・バッグなどに入れた状態ではご利用になれません。



ドッグスリングでは全身が入っていてもご利用になれません。



ペットカート（ペットバギー）は、カートも含めた寸法がペットを有料手回り品としてお持ち込みいただける制限を超えるためご利用になれません（ケースとカートを分離する場合を除きます）。

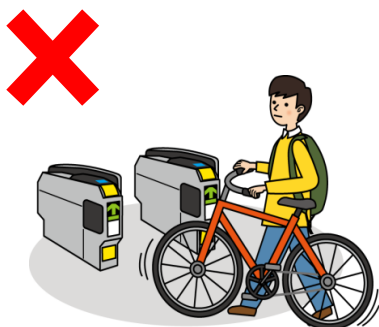
法令に定める盲導犬、介助犬、聴導犬を使用者本人が随伴する場合は除きます。
ただし、法令に定める表示等を行っている場合に限りです。

自転車やスキーなどを駅・列車に持ち込む際は

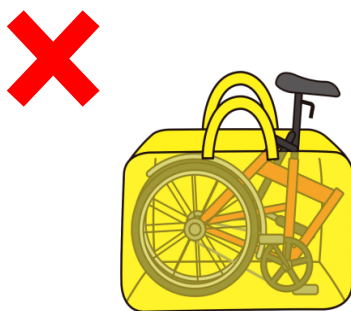
お客様ご自身や、他のお客様に対する思わぬケガ等を防ぐため、以下の点をお守りください。



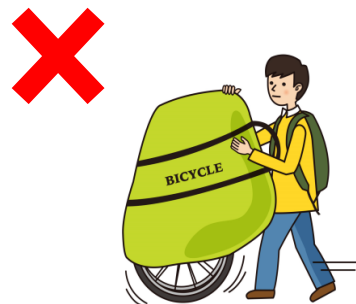
- ▼ サイクリングやスポーツ大会などに使用する自転車は解体して専用の袋に収納してください。
- ▼ 折りたたみ式自転車の場合は、折りたたんで専用の袋に収納してください。



自転車を専用の袋に入れずに持ち込むことはできません。



サドルやハンドルなどが露出したまま持ち込むことはできません。



タイヤが露出した状態で、転がしながら持ち込むことはできません。



スキーやスノーボードは、そのまま持ち込むと鋭利な部品等で思わぬケガにつながる危険があります。専用の袋に収納するなど、駅や車内での事故防止にご協力をお願いします。